

## くるび

下司の上の方に、「大の木田」という所や、下  
氏家の砂山という小高い丘に、くるび（くるみ）  
の木がようけ（沢山）ありました。

夏、細長い房になった白色の花が咲き、秋は大  
きな青い実が伊勢大神楽の鈴のように沢山なりま  
した。

男の子も、女の子も、木に登ったり、下から枝  
を引っ張ったろして、みんなで木の枝をしわめ  
（枝を下に曲げる）て、実を探りました。また、  
竹ざおで実をたたいて採る子もいました。

手も、足も真っ黒。一人が三個ぐらいずつ手に  
持つと、端のなるべくガサガサの所を選んで青い  
実をこすりつけて、中の種を出しました。

それから、石で種の固い殻をたたいて割るので  
すが、いつも、だれが一番上手に、おかぐら（お



獅子)のように形を壊さないで、白い実が取れる  
か競走しては、上手とか、下手とか、笑いながら  
食べました。これが、おやつでもあったのです。